

令和4年度(2023年3月卒業生)の就職結果

12年連続  
99%以上、  
確かな就職実績!

就職  
内定率 99.6%

## 1 昨年度の就職状況について

まず、昨年度、内定率99.6%を達成できたことは特筆すべきこととして挙げられます。この成果の要因も、地元の備後地域等の多くの事業所様から求人をいただいたことや、本学の学生が、卒業生を含めて各企業様等から高い評価を得ていることにもあると受け止めています。

また、学生の就職活動の立ち上がりの良さに呼応して、本学の教職員も一丸となって、しかも、きめ細かい就職支援を実施し続けていることも、このような好結果につながったと思います。

さて、就職状況については、地域別では地元の広島県への就職が約64%、広島県を除く中国地方が約13%等です。業種別では医療・福祉業が約43%、教育は約18%、卸売・小売業は約13%、建設業(事務職、営業職を含む)が約6%等、多様な就職実績を得ています。

## 2 4年生の就職活動の状況及び本学の取り組みについて

今春から本格化した4年生の就職活動も、はや4ヶ月目に入り、各学生は多様なニーズを持って就職課を積極的に訪ねて来ます。それに応えるように、キャリアカウンセラーやハローワークから定期的に派遣されているジョブサポーターが、学生への相談対応に精力的に当たってくださっています。現在、相談予約枠が一杯の状態です。就職課の職員も履歴書添削や面接指導等の相談に応じています。

このように、本学では各学科の就職委員会を含めて、教員とも密な連携を図るなど、しっかりとしたサポート体制を組み、本年も就職率100%をめざして取り組みます。

## 3 就職活動を取り巻く状況の変化

現在、政府が主導する大卒採用の指針(いわゆる、「就活ルール」)は、就活中の現4年生、また、3年生に関しては現行ルールどおりです。つまり、説明会開始が3年生の3月1日、採用選考が4年生の6月1日の解禁で、正式な内定日は10月1日以降(9月30日以前の内々定は、学生を拘束しないことになっています)です。本年度の企業の採用活動の特徴は、早期化のさらなる加速です。これは、社会がアフターコロナに向かう中で、経済が回復基調となり、また、「売り手市場」での採用難から、企業の人材確保の動きが再び活発となっているためです。企業のインターンシップ経由での採用も定着しつつあり、昨年4月の「インターンシップ生の情報の採用への活用合意」のニュースを受けて、本年度から表立ってこのことに取り組めるようになり、今後も「早期化」・「長期化」に一層拍車が掛かる様相です。

また、学生たちも、学業や学生生活と両立出来る範囲でインターンシップに前向きに参加したいと考えているようです。

## 4 状況の変化を踏まえた学生の心構えについて

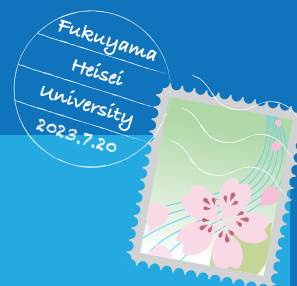
上述のように、就職活動を取り巻く状況は刻々変化しており、採用活動の影響を受けている状況です。

そこで、2年生以下の学生に向けては限られた時間の中で、しかも、就活の「早期化」・「長期化」という状況下で大学生活を送るわけですから、自己のキャリアアップにつながる実体験を着実に積み重ねながら、自らの人生や仕事に対する考えや価値観を確実に熟成させ、3年生でのインターンシップや、さらに4年生になったときの就職活動への強い動機付けにして欲しいものです。

保証人の皆さまにも、本学の取り組みにご理解とご協力をよろしくお願いします。

福山平成大学学報

第101号



み  
ゆ  
き  
レ  
タ  
ー



## G7広島サミット

5月19日～21日に開催されたG7広島サミットの期間中において、本学から経営学科 緒方さん、健康スポーツ科学科倉本さん、看護学科 田口さんの3名がボランティアとして参加しました。

緒方さんは、通訳ボランティアとして外国メディアの方に広島の歴史・伝統工芸品に対する感想を調査する活動を行い、また、田口さんと倉本さんは、おもてなしボランティアとしてパンフレットや地図などの書類配布や、翻訳機を用いて外国人の対応などの活動を行いました。



▲田口さん(左から2人目)倉本さん(右端)



▲富士学長へ報告する緒方さん

## 福山市スポーツ協会と連携協定

福山平成大学と姉妹校の福山大学は、5月19日福山市スポーツ協会とスポーツによる地域振興に向けた連携協定を結びました。大学側は、協会主催のスポーツ行事に学生をスタッフとして派遣し、協会側は主催行事で得たデータを大学へ提供し授業に活かすなど、双方の持つ情報を共有し、連携していきます。



御幸五訓

一、真理を求め、道理の実践を志向する。  
二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。  
三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。  
四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。  
五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

## Open Campus オープンキャンパス

本学では、高校生・保護者を対象に、福山平成大学の学びや魅力を体験できるオープンキャンパスを開催しています。キャンパスへ足を運び、福山平成大学を肌で感じてもらえるよう来場型で開催し、事前申込制で対応しております。学科での学びの紹介、入学者選抜制度説明を行います。高校生に興味を持てただけの内容での模擬講義・実習体験、施設・設備の見学、キャンパスライフの紹介など、本学のことを知ってもらえるプログラムを企画しております。安心して楽しい1日を過ごしてもらえるように、学生スタッフと教職員が万全の準備をして実施しております。2023年度は第1回を6/17に開催いたしました。

第2回以降は  
下記の日程で  
開催いたします。

7月23日(日)  
8月19日(土)  
9月9日(土)  
3月16日(土)



編集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)  
発行 福山平成大学  
発行日 2023年7月20日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1  
TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <https://www.heisei-u.ac.jp/>



## 健康スポーツ科学科 初年次教育の充実

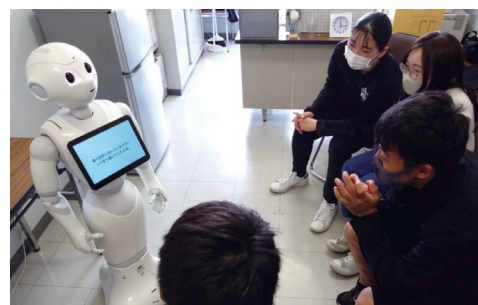
新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、健康スポーツ科学科では今年度、新入生の合宿オリエンテーションを4年ぶりに実施しました。合宿で運営を行うことが伝統になっていた2、4年生の学生リーダー達は、自分たちも体験できなかったこの合宿のため、1か月以上前から入念な準備をして、プログラムを構成し、校歌指導やレクレーション等、大学生として身に付けるべき規律や、集団行動等を教え、その仲間づくりを助けていく活動を行いました。合宿は終わっても、リーダーたちは年間継続的に1年生のサポートを行っていきます。



リーダーにとっては大変な一面もありますが、新入生はリーダーに信頼を寄せ、リーダーは社会人として必要な人間力を磨いています。他にも初年次教育として「基礎演習」という科目がありますが、この科目では、大学でのレポート課題の作成やプレゼンテーションのコツを学び、自分の考えをどう主張するか、相手に伝わるようにするためにはどうしたらいいか考え、最後は数会場に分かれて発表します。また、本学科で取得できる保健体育教員免許、養護教諭、スポーツトレーナー等の様々な資格取得の意義について考え、自己の将来像を見つめ直して見通しを持ったり、スポーツテストや自然体験を行ったりと多彩な構成となっています。スポーツが得意な学生たちは、スポーツテストで記録を伸ばし、自然体験ではたくましく生きる力を身に付けます。こうした活動で自己を表現し他者と楽しく関わる中で、真の仲間を増やし、安心して学生生活を送れる土壌づくりとなっていくことでしょう。新入生には基礎演習で学んだことを活かして、目標と見通しを持った充実した4年間を送ってほしいと思います。

講師 近藤 千穂

## 福祉学科 介護向けPepperを導入



(©SoftBank Robotics)  
「Pepper」はソフトバンクロボティクスの登録商標です。

福祉学科は、学生が福祉に関する専門知識と実践力を培うことができるカリキュラムを展開しています。また、社会福祉士・介護福祉士の国家試験の受験対策にも力を入れ、福祉現場で活躍できる人材をこれまで多く輩出してきました。

他方で、近年急速にその開発・利用が進んでいるAI (Artificial Intelligence: 人工知能) や ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) の普及により、福祉現場にもDX (Digital Transformation) が進められています。ここでいうDXとは、デジタル技術を活用することで、人々の生活やビジネスをより良い方向へと変革させることを意味します。こうしたDXの推進がとりわけ期待されている福祉の現場が介護の現場です。

現在の日本では、介護が必要な高齢者の増加と介護専門職の人材不足といった課題が同時に生じています。これらの課題に対応するために、介護職員の負担を軽減し、より質の高い介護を実現する目的で「介護ロボット」を導入する施設が徐々に増えています。

このような時勢において、福祉専門職を目指す学生には、現場で活用されるデジタル技術に対応できる力、また推進していく力が求められているといえます。また、そうした学生を育成するために、福祉学科には教育の中に福祉現場のデジタル技術を取り入れる必要性があると考えます。そこで、実際に介護施設でも利用者とのコミュニケーションやレクリエーション、リハビリテーションなどに活用されるソフトバンクロボティクスの人型ロボット「Pepper (ペッパー)」を導入しました。福祉学科では、授業を通して介護向けPepperの現場での活用方法を学び、デジタル技術にも対応できる福祉専門職としての実践力を備えてもらえるよう準備を進めています。

講師 石田 咲子

# 学科トピックス

## 看護学科

### 令和5年度臨地実習指導者連絡会議



令和5年6月10日(土)に、看護学部で臨地実習指導者連絡会議が開催されました。

この会議は、大学と臨地実習施設との連携を図り、臨地実習における効果的な学生指導および看護基礎教育に活かすことができることを目的にしています。コロナ禍の影響を受け、今年度は4年ぶりに対面での会議を開催することができました。参加者は63名の施設関係者(参加施設19施設で、2部構成で実施されました。

第1部は、全体会として学部の理念と教育の現状報告を行うため、本宮学部長、田村学科長の挨拶、臨地実習の報告・感染対策、次年度以降のカリキュラムについて報告を行いました。

第2部は、分科会として7つの看護専門領域(看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学・在宅看護学)領域に別れ、施設関係者と教員との協議の機会となりました。実習においては、共通認識が必要となるため、施設関係者と教員双方から、問題点や課題について意見交換が行われました。良好なコミュニケーションを通して課題解決に取り組んだ会議となりました。

今後とも効果的な臨地実習指導者連絡会議になるよう、より一層推進していきたいと思っています。

教授 平井 三重子

## 経営学科

### インターンシップに向けて



私は、就職活動に向けて、インターンシップの授業を受講しています。その一貫として、4大学合同のBINGO OPENインターンシップ合同企業説明会に参加してきました。この会場には、82社と多くの会社のブースが設けられており、各ブースで業界・職種の説明と体験内容についてお聞きしました。

参加した学生には、自由なブリスをまわる時間と事前に割り当てられたブリスをまわる時間がありました。自由な時間では、興味がある販売関連の会社の説明会に参加しました。割り当てられた時間では、機械や工業系の会社の説明会に参加することになり、全く考えていなかった業界でしたが、イメージと違ふことが多くあることを知り、視野を広げることができました。また、過去のインターンの様子を紹介している会社もあり、行きたいという気持ちが高まる機会となりました。

現在は、夏休みに実施されるインターンシップに向けて、申込みをしている段階です。私はゼミでマーケティングを勉強しており、商品企画や販売に興味があるので、マーケティングに関わる仕事の体験をしたいです。実際の会社で、マーケティングはどのように活用されるのか、マーケティングを仕事にするとはどういうことか、について学びたいです。

数か月後には、就職活動がはじまります。そのときに、どの業界に行きたいか、どの職種に就きたいか、しっかりと就職活動の軸を定めたうえで取り組めるように、頑張ってきます。

3年 上窪 あゆみ

## 現場教員による実践的授業について

「現場主義・実践主義の教育」を重視しているこども学科では、入学間もない1年生に対して、現場の先生による実践を体験する授業を行っています。今年5月12日(金)に「学校法人崇光学園御調みくに幼稚園」の先生方3名が本学に来てくださり実施しました。



「幼稚園の現職教諭の先生方が教師役、学生が子ども役となった保育を経験することで、幼児教育の方法を実践的に学ぶ」ことを目的に、現場での保育をたくさん体験させていただきました。「動物ジャンケン」「しっぽとり」「忍者体操」「絵本の読み聞かせ」など多岐にわたる内容で、楽しい遊びとその指導法、遊びを通しての学習について学ぶことが出来ました。現場の先生ならではの明るい言葉や態度での指導で、学生は子どもになりきって走ったり、歌ったり、ピアノを弾いたりしました。こども学科棟全体に学生の大きな笑い声が響く時間となりました。

御調みくに幼稚園には、こども学科卒業生も、幼稚園教諭として活躍中です。今回の授業に卒業生の岡田先生も来てくださり、先生として保育指導をするだけでなく、幼稚園教諭の楽しさなど現場でしか得られない貴重なお話をしてくださりました。多くの学生の前で堂々と笑顔で話す姿に幼稚園教諭としての自信を感じました。

こども学科では、各学年で教育・保育現場を体験する授業を行っています。子どもたちが本学の豊かな自然環境・教育施設に来て学生と触れ合う授業、地域の園・校に行かせていただき現場での子どもの姿を学ぶ授業など様々な場面での学修を通して、実践的資質、能力を培っています。

講師 佐伯 岳春



■ テーマ「開学30周年へのカウントダウン ～研究・教育・実践の現在地～」

■ 日時 全5回(9月7日、14日、21日、28日、10月5日) 18:30～20:00

■ 会場 福山平成大学 7号館大講義室

■ 受講対象者及び定員 一般市民 250名

■ 受講料 無料

■ 問い合わせ先 庶務課

第1回 9月7日	「アスリートの動作分析とスポーツ現場への活用法」	健康スポーツ科学科 藤井 宏明 准教授
第2回 9月14日	「会計のしくみとヒストリー ～会社を数字で管理する～」	経営学科 宗像 智仁 講師
第3回 9月21日	「 <b>「発達障害」「気になる子ども」への支援と配慮</b> ーダイバーシティ、インクルージョン、やさしい心でつながる持続可能な社会へー」	こども学科 矢野川祥典 准教授
第4回 9月28日	「 <b>今から始めるアンガーマネジメント</b> ～イライラ、怒りをしずめる上手な付き合い方について～」	看護学科 松本 陽子 講師
第5回 10月5日	「 <b>健幸に長生きするための、あたま・からだ・なかまづくり</b> 」	福祉学科 大塚 和美 助教

News!

令和5年度 入学式

本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の防止措置の観点から、入学式は新入生のみで開催されました。学部・大学院・専攻科あわせて316名の新入生が入学し、福祉学科の原ゆうさんが全学生の代表として富士学長から入学許可書を受領しました。



News!

グラウンド内人工芝改修

14年ぶりにグラウンド内人工芝が改修され、4月28日(金)に工事完成によるオープンセレモニーが、鈴木理事長、富士学長の参列のもと、執り行われました。4月10日(月)より開始された、人工芝改修工事ですが、無事故、無災害で無事完成を迎えることができました。

このグラウンドはサッカー部の練習や大学行事、授業などに使用していますが、有意義に多くの学生が利用してくれることを期待しています。



令和5年度

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金、科学研究費補助金)採択一覧

所 属 職 名	氏 名	研 究 種 目	研 究 課 題 名		研 究 期 間	交 付 金 額
経 営 学 部	教 授	市瀬 信子	基盤研究 (C)	清朝康乾年間における、地方文献編纂と詩会活動を背景とした杭州詩人達の葛藤と文学	令和3年度～令和5年度	4,030,000円
経 営 学 部	教 授	堀越 昌和	基盤研究 (C)	中小企業における女性後継者の承継後企業パフォーマンスの決定要因に関する研究	令和5年度～令和7年度	4,550,000円
福祉健康学部	教 授	岡部真智子	基盤研究 (C)	地域で連携して取り組む居住支援プログラムの実践的開発と検証	令和2年度～令和6年度	4,420,000円
福祉健康学部	講 師	石田 咲子	基盤研究 (C)	「息の長い」支援に向けた満期釈放者に対する再犯防止施策の検討	令和5年度～令和7年度	1,950,000円
福祉健康学部	教 授	古賀 一博	基盤研究 (C)	教員人事評価制度改善のための東アジア国際比較共同開発研究	令和3年度～令和6年度	4,030,000円
福祉健康学部	教 授	上村 崇	基盤研究 (C)	道徳教育における哲学対話を援用したいじめ現象抑止プログラムの開発	令和3年度～令和5年度	2,340,000円
福祉健康学部	講 師	峯田晋史郎	若 手 研 究	身体接触及び認知負荷を伴う動作中の内がえし捻挫受傷予防トレーニングの開発	令和3年度～令和7年度	4,680,000円
看護学 部	教 授	内田 史江	基盤研究 (C)	在宅がん患者の看取りを支える「家族コミットメント」アセスメントツールの開発	令和4年度～令和7年度	1,040,000円
看護学 部	講 師	松本 陽子	若 手 研 究	精神科看護師が抱く陰性感情と視点取得の関わりモデルの構築	令和4年度～令和7年度	2,080,000円
看護学 部	准教授	中川名帆子	基盤研究 (C)	オンラインシステムを活用した臨地実習における教育実践能力育成プログラム開発	令和2年度～令和5年度	4,290,000円

学長杯争奪競技大会報告

福山平成大学開学記念日の5月15日には毎年、学長杯争奪競技大会が開催され、今年もソフトボールとソフトバレーボールの競技が行われました。

ソフトボール10チーム、ソフトバレーボール11チームのエントリーがあり、天候にも恵まれ熱き戦いが繰り広げられました。(大会参加者、運営学生、教職員 総数約300人)



競技の結果

ソフトボール	優勝 健康スポーツ科学 A
	準優勝 健康スポーツ科学科 B
ソフトバレーボール	優勝 福祉学科 A
	準優勝 健康スポーツ科学科 B



令和5年度 サークル活動記録

2023/5/29(現在)

<b>男子バレーボール部</b> 第97回中国大学バレーボールリーグ戦春季大会 4/22～5/14 水嶋緑地福田公園 他  準優勝  第67回中国四国学生バレーボール選手権大会 5/28～5/29 六番川水の公園体育館  準優勝 2023年度 第49回西日本バレーボール大学男子選手権大会に出場 6/20～	<b>軟式野球部</b> 第28回中国地区大学軟式野球連盟春季大会 3/29～5/13 井原運動公園野球場 他  準優勝  全日本大学軟式野球選抜大会 中国地区・四国地区ブロック大会 6/3 岡山県総合グラウンド野球場  優勝 第3回全日本大学軟式野球選抜大会に出場(3年連続3回目) 8/20～
<b>陸上競技部</b> 第77回中国四国学生対校選手権大会 5/19～21 岡山県総合グラウンド陸上競技場 男子 400mハードル <b>第1位</b> 穂積 昶史(健スポ4) 女子 10000m競歩 <b>第1位</b> 三好 彩奈(こども4)  上位入賞者は第76回西日本学生陸上競技対校選手権大会に出場 6/15～	
<b>ソフトテニス部</b> 第47回中国学生ソフトテニスリーグ戦大会 第67回中国学生ソフトテニス優勝大会 第25回中国学生ソフトテニスシングルス選手権大会 4/28～5/2 キリンビバレッジ周南庭球場  男子団体 <b>優 勝</b> 女子団体 <b>優 勝</b> 女子ダブルス <b>優 勝</b> 犬飼のどか(こども3)・東脇光希(経 営1)ペア 準優勝 仁田 百香(こども2)・柴田真衣(健スポ2)ペア 女子シングルス <b>優 勝</b> 岡崎あゆみ(健スポ3) 全日本大学ソフトテニス王座決定戦に出場 6/16～	

令和5年度マナー向上キャンペーン実施

令和5年6月5日～7日にキャンパスマナーの向上を図り、キャンパス環境を快適なものにすることを目的として学友会・学科から選ばれた学生・サークル・教職員総勢150人が協力し実施しました。





貸借対照表 (令和5年3月31日) (単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	57,662,248,469	固定負債	1,896,514,590
有形固定資産	30,872,898,010	長期借入金	168,270,000
土地	6,890,160,619	退職給与引当金	1,633,616,682
建物	15,727,992,717	長期未払金	94,627,908
構築物	821,000,544	流動負債	2,435,750,054
教育研究用機器備品	2,465,531,187	短期借入金	47,760,000
管理用機器備品	30,046,219	未払金	76,814,127
図書	4,908,476,718	前受金	2,176,217,900
車両	18,629,747	預り金	134,958,027
船舶	11,060,259	負債の部合計	4,332,264,644
建設仮勘定	0		
特定資産	26,752,768,763	純資産の部	
第2号基本金引当特定資産	2,000,000,000	科目	金額
退職給与引当特定資産	1,633,616,682	基本金	55,233,881,114
減価償却引当特定資産	15,587,573,606	第1号基本金	52,745,881,114
校舎建設等引当特定資産	3,425,757,976	第2号基本金	2,000,000,000
創設準備引当特定資産	4,105,820,499	第4号基本金	488,000,000
その他の固定資産	36,581,696	繰越収支差額	3,127,930,192
電話加入権	3,048,426	翌年度繰越収支差額	3,127,930,192
施設利用権	600	純資産の部合計	58,361,811,306
保証金	33,316,670		
敷金	216,000	負債及び純資産の部合計	62,694,075,950
流動資産	5,031,827,481		
現金預金	4,751,154,689		
未収入金	163,797,597		
有価証券	81,363,520		
前払金	35,511,675		
仮払金	0		
資産の部合計	62,694,075,950		

貸借対照表

貸借対照表は、年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状況を示すものです。資金収支計算書と事業活動収支計算書が単年度の収支を示すのに対して、貸借対照表はこれまでの財務状況の積み重ねを示しています。

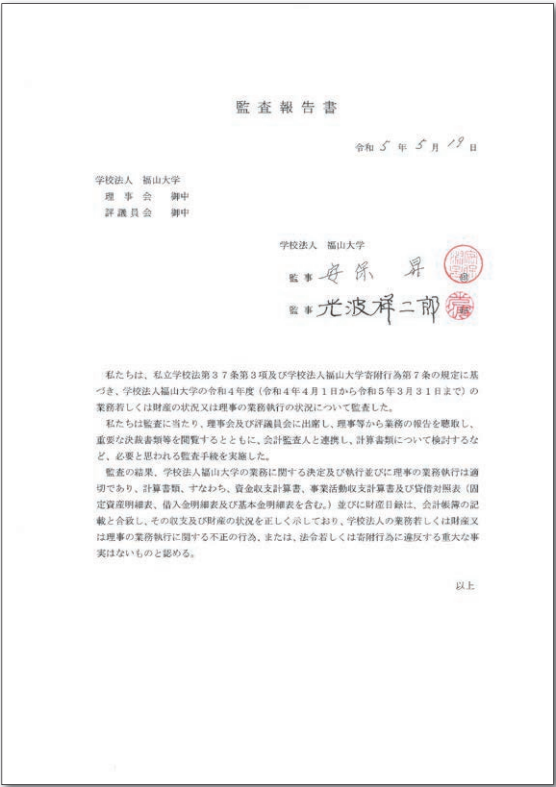
資産の部	
固定資産	次の有形固定資産、特定資産、その他の固定資産の合計
有形固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する有形の資産で、土地、建物、教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車輜等
特定資産	基本金引当特定資産及び各種引当特定資産
その他の固定資産	電話加入権、施設利用権、有価証券等
流動資産	現金預金、未収入金、貯蔵品等
負債の部	
固定負債	長期借入金、退職給与引当金、長期未払金等
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金等
純資産の部	
基本金	学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために組み入れた金額で、第1号基本金から第4号基本があります
第1号基本金	教育活動を行うために取得した固定資産の価額
第2号基本金	将来取得する固定資産の取得に充てる金銭及びその他の資産の額
第3号基本金	奨学金等の基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭及びその他の資産の額
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額
繰越収支差額	累積の収支状況を示しており、事業活動収支計算書の翌年度繰越収支差額と一致します

財産目録 (令和5年3月31日) (単位：円)

一 資産 額			
1. 基本財産			30,872,898,010
土地	338,143 m		6,890,160,619
建物	152,467 m		15,727,992,717
構築物			821,000,544
教育研究用機器備品	4,704 点		2,465,531,187
管理用機器備品	203 点		30,046,219
図書	454,482 冊		4,908,476,718
車両	31 台		18,629,747
船舶	2 艇		11,060,259
建設仮勘定			0
2. 運用財産			31,821,177,940
現金預金			4,751,154,689
第2号基本金引当特定資産			2,000,000,000
退職給与引当特定資産			1,633,616,682
減価償却引当特定資産			15,587,573,606
校舎建設等引当特定資産			3,425,757,976
創設準備引当特定資産			4,105,820,499
電話加入権			3,048,426
施設利用権			600
保証金			33,316,670
敷金			216,000
未収入金			163,797,597
有価証券			81,363,520
前払金			35,511,675
仮払金			0
資産総額			62,694,075,950

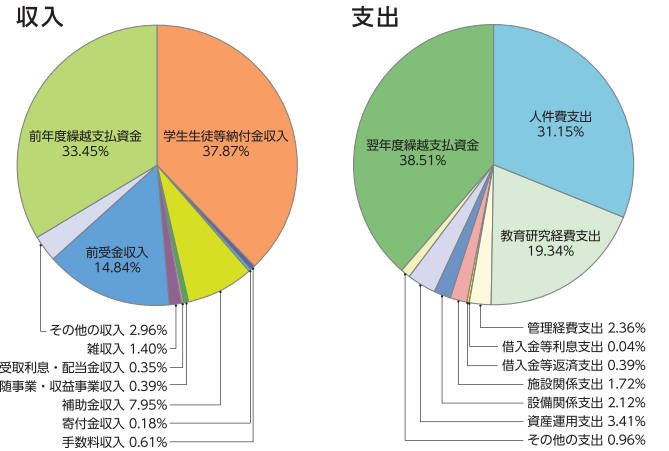
二 負債 額			
1. 固定負債			1,896,514,590
長期借入金	日本私立学校振興・共済事業団		168,270,000
退職給与引当金			1,633,616,682
長期未払金			94,627,908
2. 流動負債			2,435,750,054
短期借入金	日本私立学校振興・共済事業団		47,760,000
未払金			76,814,127
前受金			2,176,217,900
預り金			134,958,027
負債総額			4,332,264,644

正味財産(資産総額－負債総額)	58,361,811,306
-----------------	----------------



資金収支計算書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日) (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,554,433,573	人件費支出	3,843,188,944
手数料収入	89,670,980	教育研究経費支出	2,385,940,827
寄付金収入	25,957,389	管理経費支出	291,144,466
補助金収入	1,166,520,469	借入金等利息支出	4,748,025
資産売却収入	400,000	借入金等返済支出	47,760,000
付随事業・収益事業収入	57,601,236	施設関係支出	212,518,152
受取利息・配当金収入	51,732,760	設備関係支出	261,792,341
雑収入	204,774,983	資産運用支出	12,303,054,000
借入金等収入	0	その他の支出	2,588,540,333
前受金収入	2,176,217,900	資金支出調整勘定	△ 102,648,189
その他の収入	14,786,524,458		
資金収入調整勘定	△ 2,432,274,324		
前年度繰越支払資金	4,905,904,164	翌年度繰越支払資金	4,751,154,689
収入の部合計	26,587,193,588	支出の部合計	26,587,193,588



上記のグラフは次のとおり調整しています。  
① 資金収入・資金支出調整勘定を除外  
② その他の収入・資産運用支出・その他の支出のうち、資産運用・預り金・仮払金に係るものは収入と支出を相殺

資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いもので、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うことにより生ずるすべての資金収支の内容を示しています。学校法人の資金収支計算書では、前受金、未収入金、未払金、前払金を加えたもので、個々の収入金額、支出金額は必ずしも企業会計におけるキャッシュ・フローとなっていないませんが、別途「資金収入調整勘定」と「資金支出調整勘定」を設けて、これら前受金等を調整することになり、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

科目の説明	
収入の部	
学生生徒等納付金収入	授業料・入学金・実験実習料等の収入
手数料収入	入学検定料、休学者在籍料、各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金収入	金銭及びその他の資産を寄贈者から贈与された収入
補助金収入	国または地方公共団体から交付される補助金収入
資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却による収入
付随事業・収益事業収入	補助活動、附属事業、受託事業および収益事業による収入
受取利息・配当金収入	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
借入金等収入	返済期限が貸借対照日後1年を超えて到来する長期借入金と1年以内の短期借入金及び学校債の発行による収入
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの
その他の収入	上記以外の収入で、各種特定資産の取崩収入及び預り金等の収入
資金収入調整勘定	前年度の諸活動に対応する収入ですが、資金の収入が当年度中に行われず、前年度以前または翌年度以降となる項目を調整する勘定科目

支出の部	
人件費支出	教職員人件費、役員報酬、退職金に係る支出
教育研究経費支出	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出
管理経費支出	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出
借入金等返済支出	土地、建物、構築物等の固定資産の取得に係る支出
施設関係支出	機器備品、図書、車両等の取得に係る支出
設備関係支出	各種特定資産への繰入支出、有価証券の取得に係る支出
資産運用支出	上記以外の支出で、前払金、仮払金等に係る支出
その他の支出	当年度の諸活動に対する支出であるが、実際の資金の支出が前年度以前にあったものまたは、翌年度以降になるもの
資金支出調整勘定	

事業活動収支計算書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日) (単位：円)

科目	金額
教育活動収支	
事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	5,554,433,573
手数料	89,670,980
寄付金	22,179,189
経常費等補助金	1,151,520,469
付随事業収入	57,601,236
雑収入	204,776,983
教育活動収入計	7,080,182,430
事業活動支出の部	
人件費	3,794,413,228
教育研究経費	3,367,636,548
管理経費	355,386,781
徴収不能額等	0
教育活動支出計	7,517,436,557
教育活動収支差額	△ 437,254,127

教育活動外収支	
事業活動収入の部	
受取利息・配当金	53,890,863
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	53,890,863
事業活動支出の部	
借入金等利息	4,748,025
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	4,748,025
教育活動外収支差額	49,142,838
経常収支差額	△ 388,111,289
特別収支	
事業活動収入の部	
資産売却差額	399,900
その他の特別収入	20,689,130
特別収入計	21,089,030
事業活動支出の部	
資産処分差額	8,606,799
その他の特別支出	0
特別支出計	8,606,799
特別収支差額	12,482,231

基本金組入前当年度収支差額	
基本金組入額合計	△ 375,629,058
当年度収支差額	0
前年度繰越収支差額	3,383,205,435
基本金取崩額	120,353,815
翌年度繰越収支差額	3,127,930,192

(参考)	
事業活動収入計	7,155,162,323
事業活動支出計	7,530,791,381

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、毎会計年度の3つの活動(教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動)に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするためのものです。

科目の説明	
事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	授業料、入学金、実験実習料等の収入
手数料	入学検定料、休学者在籍料、各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金	資金収支の寄付金収入に現物寄付を加えた額（施設設備に係る寄付は除く）
経常費等補助金	国や地方公共団体から交付される補助金収入（施設設備に係る補助金は除く）
付随事業収入	補助活動、附属事業、受託事業による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
受取利息・配当金	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
その他の教育活動外収入	収益事業等からの収入
資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を超えた場合の超過額
その他の特別収入	施設設備に係る寄付金、補助金及び過年度修正額による収入

事業活動支出の部	
人件費	教職員人件費、役員報酬、退職金に退職給与引当金繰入額を加えたもの
教育研究経費	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出に減価償却額を加えたもの
管理経費	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出に減価償却額を加えたもの
徴収不能額等	前年度以前に計上した未収入金等で、当年度において回収不能と判断した額
借入金等利息	借入金及び学校債の利息に係る支出
その他の教育活動外支出	為替差損等に係る支出
資産処分差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を下回った場合の差額及び資産を売却した場合の除却損
その他の特別支出	災害損失及び過年度修正額に係る支出

その他の項目	
基本金組入前当年度収支差額	当年度における教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の全ての収入と支出の差額
基本金組入額合計	第1号基本金から第4号基本金の当年度組入額
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した当年度の収支差額
前年度繰越収支差額	前年度までの累積収支差額
基本金取崩額	基本金を取り崩した場合の額
翌年度繰越収支差額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額と基本金取崩額を加えた額で翌年度に繰り越す収支差額
事業活動収入計	当年度の事業活動収入の合計
事業活動支出計	当年度の事業活動支出の合計